

楽しむ コンテンポラリー



井口裕之

クラシックバレエの表現や技術を、親しみやすいコンテンポラリーダンスに織り込んだ「ダンス・ボザール」が11月7日、名古屋・新栄の市芸術創造センターで上演される。テアトル・ド・バレエカンパニー（名古屋千種区）の公演。振付家・井口裕之の作品を軸に、機知とエンターテインメント性に富む演目が披露される。

同カンパニーは古典と共にコンテンポラリーを重視。「ダンサーが考え、表現する力をつけるにはコンテンポラリーは不可欠」（主宰の塚本洋子）と、レ

テアトル・ド・バレエ スポーツ風の作品も



「D」

ッスンにも早くから導入した。新国立劇場バレエ団出身の井口を4年前に迎え、新世代のコンテンポラリーに挑戦してきた。今回は小学3年〜高校生のAプログラム（開演午後2時半）

と、選抜メンバーらが出演するBプログラム（午後7時）の2公演。Aはテニスとダンスを合わせた作品「デュース」や夢の世界を描く「ピクニック」。Bはローマの闘技場をモチーフに男女の愛と闘いをつづる新作「コロッセオ」や再演の「DOLL」、バスケットボールの動きを入れた至学館高ダンス部の「シェイキング・オーク」、今夏の「バレエコンペティション21」受賞者ソロがある。

井口は「重い、分かりにくいと思われがちなコンテンポラリーのイメージを変え、また見たいと思わせる作品を目指す」。Aプログラム2500円、Bは4500円。☎052・723・1927（カンパニー）。

（丹羽のさ子）